

点検評価表（外郭団体）

I 団体の概要

（平成31年4月1日現在）

団体名	公益財団法人静岡県文化財団		
所在地	静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号	設立年月日	昭和59年5月22日
代表者	理事長 鈴木壽美子	県所管課	文化・観光部 文化政策課
設立に係る根拠法令等	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律		
団体の沿革	昭和59年5月 財団法人静岡県文化財団設立 平成25年4月 公益財団法人に移行		
運営する施設	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ（指定管理）		
団体ホームページ	http://www.shizuoka-cf.org/		

出資者	出資額(千円)	比率(%)
静岡県	900,000	85.1
県内35市町	100,000	9.5
県民募金等	1,710	0.1
期末評価益	55,938	5.3
基本財産(資本金)計	1,057,648	100.0

役職員の状況(人)			
常勤役員	1	常勤職員	33
うち県OB	1	うち県OB	1
うち県派遣	0	うち県派遣	4
非常勤役員	20	非常勤職員	2
役員計	21	職員計	35

II 点検評価（団体の必要性）

1 団体の設立目的（定款）

各種の文化及び芸術の振興を図る事業並びに国内外との交流を図る事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興を図り、もって県民生活の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与することを目的とする。

2 団体が果たすべき使命・役割

各種の文化及び芸術の振興を図る事業並びに国内外との交流を図る事業を行うことにより、第4期ふじのくに文化振興基本計画の重点施策として位置づけられている「子どもが文化と出会う機会の充実」「多様な価値観を表現し、尊重する環境づくり」「創造活動の実現と環境づくり」「文化資源の発掘と創造活動による地域の魅力向上」「地域・社会の様々な課題への文化力の活用」「文化を支援する機能の強化」を推進することを目的とする。

3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の文化活動に対する支援や相談を包括的に受ける体制の整備と効果的な情報発信の必要性が高まっている。 ・グランシップの位置する県中部地区だけでなく、県内各地での文化財団主催の文化事業の開催が求められている。 ・Webの活用などグランシップの施設利用に対する更なる利便性の向上が求められている。
行政施策と団体活動との関係（役割分担）	<ul style="list-style-type: none"> ・財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与するために県が主体となって設立した団体で、静岡県文化振興基本計画では県の文化振興の中核組織として重点施策推進の担い手に位置づけられている。 ・財団は、県の文化と交流の拠点施設であるグランシップの管理運営を担い、平成18年度からは指定管理者としてグランシップを拠点に多彩な文化振興事業を展開している。
民間企業や他の団体との関係（役割分担）	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩で、上質な文化芸術に触れる機会を作り出すため、伝統芸能や県民参加型の事業等、民間では採算ベースに乗らない事業を展開する。 ・県域を対象に文化資源の存在や価値の掘り起こし、地域の文化団体への助成、顕彰を実施していく。

4 事業概要

(単位:千円)

区分	事業名	事業概要	H30 決算	R1 予算
自主事業	文化芸術の振興事業 (地域文化活動団体顕彰事業)	新たな地域文化の創造を目指し、県内各地で多彩で優れた文化活動を展開している団体を公募し、顕彰する。	513	600
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業 /ふじのくに文化プログラム推進助成)	国が全国的に推進する「文化カプロジェクト」を推進し、県内の多彩な文化芸術活動や、「ささえる」活動を発展・継承し、県内外に発信するため、文化団体等に対して助成する。	4,820	6,750
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業 /魅力的な文化力発信)	県内の文化資源の存在や価値を再発見し、文化プログラムの推進につなげるとともに、県民の共有財産として、後世に伝えていくため、書籍を発行する。	76	4,028
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化カプロジェクト環境整備事業 /中高生芸術鑑賞交通費支援)	文化プログラム推進の一環として、静岡県内の中高生に上質で多彩な文化芸術に触れてもらうため、グランシップ企画事業の鑑賞に要する交通費を全額支援する。	4,100	5,200
自主事業	グランシップ友の会事業	県民の芸術文化に対する関心を高めるとともに、グランシップ企画事業への参加を促し、チケット販売に役立てるため、「グランシップ友の会」を運営する。	1,919	2,800
自主事業	文化芸術の振興事業 (文化プログラム事業)	文化プログラムの推進に資する文化芸術公演の制作、上演を行う。	30,814	14,293
県委託	文化芸術の振興事業 (子どもが文化と出会う 機会創出事業(音楽))	県内に活動拠点を置くプロオーケストラ団体を活用し、県内各地で音楽プログラムやコンサートを実施する。	—	64,100
県委託	文化芸術の振興事業 (グランシップ企画事業)	県民の文化創造発信拠点であるグランシップを中心に、「上質で多彩、そしてより身近に」を基本として、質の高い公演の招聘や、自ら企画制作する企画事業、催事情報提供事業を実施する。	239,817	254,966
県委託	文化芸術の振興事業 (その他の文化支援)	ふじのくに文化情報センターを設置し、交流・研修の場づくり等、県内の文化活動を側面的に支援するとともに、グランシップ企画事業を活用した人材育成に取り組む。	8,302	11,580
県委託	グランシップ管理運営事業	施設の適正な維持管理及び貸館業務等の円滑な運営を通じて、各種文化振興事業の拠点施設を運営するとともに、文化、芸術、学術及び国内外との交流のための施設の貸与事業及びその他の付帯事業を推進する。	1,085,854	1,098,760
合 計			1,376,215	1,463,077

5 事業成果指標

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値 (年度)
	H28	H29	H30	評価	
入館者数 (人)	700,000	700,000	700,000	B	700,000 (毎年度)
	728,874	624,442	590,327		
企画事業入場者数(文化支援を含む) (人)	125,000	130,000	130,000	A	130,000 (毎年度)
	127,007	138,134	137,755		
企画事業子ども学生鑑賞者数 (人)	H29より設定	5,500	5,500	A	5,500 (毎年度)
	—	6,424	8,397		
企画事業における満足度 (%)	90	90	90	A	90 (毎年度)
	93	94.1	94.2		
貸館利用者の不満足度(スタッフ対応) (%)	H29より設定	1	1	A	1 (毎年度)
	—	0.04	0.11		
企画事業における県民参加者数 (人)	H29より設定	2,500	2,500	A	2,500 (R3年度)
	—	2,368	2,601		
コンベンション開催件数 (件)	40	45	45	B	45 (毎年度)
	40	40	40		
友の会個人会員数 (人)	5,000	10,000	10,000	A	10,000 (R3年度)
	6,580	7,916	10,096		
サポート企業数(協賛、協力、法人会員等、団体も含む) (社)	100	100	100	A	100 (R3年度)
	86	150	140		
サポーター人数 (人)	29年度変更(活動延 人数→登録人数)	180	180	B	180 (毎年度)
	—	182	175		
インターンシップ受け入れ人数 (人)	25	25	25	A	25 (毎年度)
	56	19	27		

指標の名称(単位)	目標(上段)及び実績(下段)				目標値(年度)
	H28	H29	H30	評価	
施設稼働率数 (%)	82.0	84.0	84.0	A	84.0 (毎年度)
	83.8	82.6	84.6		
施設管理瑕疵に起因する事故件数 (件)	H29より設定	0	0	A	0 (毎年度)
	0	0	0		
催事開催支援サービス取扱件数 (件)	H29より設定	1,800	1,800	A	1,800 (毎年度)
	1,916	2,039	2,615		

※評価 … A:目標達成 B:目標未達成 C:目標未達成(乖離大)

6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は、目標達成に向け組織全体で積極的かつ効率的に取り組んだ結果、第4期指定管理計画上の数値目標14項目のうち、11項目(昨年度比3項目増)の目標を達成することができた。なお、友の会会員数は令和3年度(平成33年度)目標値を前倒して達成できた。 入館者数70万人、企画事業における県民参加者数2,500人の目標に対し、昨年度比で実績が減少し、未達である。隔年実施の催事が開催年ではなかったことが主要因 と考えられる。今後、大規模催事の誘致、積極的な営業活動の強化等を図る。 自己資金による中高生芸術鑑賞交通費支援事業の積極的な取り組みにより、子ども学生鑑賞者数が昨年度比1.25倍に増えた。 県民参加型や本県の文化資源を活用した自己資金によるグランシップ文化プログラム4事業(入場者3,799人)に積極的に取り組み、本格化する文化プログラム推進の一翼を担った。 20団体に対する自己資金による文化活動への助成など、積極的に文化活動に支援する「ふじのくに文化情報センター」では、「個別実践プログラム」を開始し、活動内容 	○	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は、グランシップ指定管理計画の数値目標14項目中、11項目達成することができ、平成29年度と比較して、達成項目を3項目増やすことができた。 項目別では「入館者数」「コンベンションの開催件数」「インターンシップ受入れ人数」の3項目が未達成であった。「コンベンションの開催件数」の増加が、「入館者数」の増加へと繋がるため、目標達成に向けて、引き続き取り組んでいただきたい。 2020年に向けて、「グランシップ文化プログラム」の実施や、「文化カプロジェクト環境整備事業」による文化芸術団体への助成を通じて、文化プログラムの推進に期待する。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> ふじのくに文化振興基本計画(静岡県文化振興基本計画)の第4期計画において、県の文化振興の中核機関として施策展開の重要な役割に位置づけられている。 「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」等の施行により役割が増しているグランシップの第1～3期指定管理者であり、現第4期指定管理者である。 「ふじのくに文化情報センター」を設置し、助成を始めとして、交流・研修の場づくり等、積極的に県内の文化活動を支援している。 	○	<p>文化財団は本県の文化振興と文化振興施策推進における役割を担う県内唯一の公益法人であり、平成30年度からの第4期静岡県文化振興基本計画においても、重点施策の主な具体的取組として、文化財団による企画事業やふじのくに文化情報センターなど、文化政策推進上の文化財団の役割が明確に位置付けられている。</p>

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

8 団体改革の進捗状況（過去の行財政改革推進委員会からの意見への対応状況）

行財政改革推進委員会意見 (経営健全性に係るもの以外)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
他団体との役割分担を整理 (H23)	○ ・契約職員のプロパー化による組織力の向上 ・効率的な事業展開を図るため文化支援業務の文化情報センターへの集約など事業内容等と体制を見直し	○ 県派遣職員数を見直し、職員のプロパー化を推進している。 県派遣職員数 (H23:7人→R1:4人)

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

1 財務状況

（単位：千円）

区分	H28 決算	H29 決算	H30 決算	評価	備考（特別な要因等）	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	43,785	42,316	-7,046	B	公益法人の収支相償、計画的な事業拡大
	経常損益 (a+b-e-f)	43,785	42,316	-8,046	B	公益法人の収支相償、計画的な事業拡大
	公益目的事業会計	18,640	15,529	-19,213	—	
	収益事業等会計	25,145	26,787	11,167	—	
	法人会計	0	0	0	—	
	剰余金	290,700	333,016	325,970	A	

※評価 … A:プラス B:特別な要因によるマイナス C:マイナス

区分	H28 決算	H29 決算	H30 決算	主な増減理由等	R1 予算	
資産の状況	資産	1,547,190	1,580,944	1,612,285		—
	流動資産	273,298	278,445	281,990		—
	固定資産	1,273,892	1,302,499	1,330,295	特定資金へのH30収益黒字の積立	—
	負債	200,674	194,804	228,667		—
	流動負債	182,440	171,937	203,091	未払金の増	—
	固定負債	18,234	22,867	25,576	退職給付引当金の増	—
	正味財産/純資産	1,346,516	1,386,140	1,383,618		—
	基本財産/資本金	1,055,816	1,053,124	1,057,648		—
	剰余金等	290,700	333,016	325,970		—
	運用財産	0	0	0		—
収支の状況	事業収益 (a)	1,311,265	1,316,304	1,344,928		1,428,046
	うち県支出額	902,200	888,700	884,472	指定管理料の減	962,600
	(県支出額/事業収益)	(68.8%)	(67.5%)	(65.8%)		(67.4%)
	事業外収益 (b)	11,994	10,314	8,699		8,454
	うち基本財産運用益	10,210	9,345	7,692	公債利率の低下	7,700
	特別収益 (c)			1,000	寄付金の増	0
	うち基本金取崩額			0		
	収入計 (d=a+b+c)	1,323,259	1,326,618	1,354,627		1,436,500
	事業費用 (e)	1,279,474	1,284,302	1,361,673	オリジナル文化プログラム事業(新規)や催事開催支援サービス業務拡大による委託費増、電気等の単価上昇による光熱水費増	1,463,077
	うち人件費	189,057	182,367	189,785		200,960
(人件費/事業費用)	(14.8%)	(14.2%)	(13.9%)		(13.7%)	
事業外費用 (f)						
特別損失 (g)						
支出計 (h=e+f+g)	1,279,474	1,284,302	1,361,673		1,463,077	
収支差 (d-h)	43,785	42,316	(7,046)		(26,577)	

2 経営改善の取組の実施状況と評価

新たな公益事業のオリジナル文化プログラム事業や県内で文化プログラムが積極的に取り組まれるための環境整備事業に取り組む等、前年度までに発生した剰余金である特定資金積立金等を計画的にかつ有効に活用している。
 自己財源の確保のため、厚生労働省の助成等、国庫関係の補助金の獲得や貸館利用者の利便性向上にもつながる催事開催支援サービスの充実を図り、収入増に努めた。
 建設20年経過による施設修繕は必要な工事等の計画的な取り組みなどから修繕費の削減など経常赤字の削減に努めた。

3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

特定資金積立金を財源とした文化プログラム関連の事業を計画し、経常損益が赤字となる予算を編成したため。
 なお、当初予算では、赤字43,800千円を計上していたが、決算では収益事業の黒字により、7,000千円の赤字に圧縮できた。

4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な運営努力を維持するとともに、収益の確保に努め健全な法人運営を継続し、収益黒字は特定費用準備資金として活用している。 財務的にも法人運営でも安定的に文化芸術の振興事業を実施できる体制を整えて、財団の設立目的である県民文化の振興を図り、文化振興基本計画で位置付けられた役割を担った。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 経営面においては、収入増及び支出削減に努めており、安定した経営状況を維持している。 平成30年度は、単年度の収支は赤字決算であったが、前年度の公益黒字分や特定費用準備資金の活用によるものである。今後も特定費用準備資金等を活用し、積極的な事業展開に期待する。

※判定欄 … ○:良好 △:改善を要する ×:抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況（過去の行財政改革推進委員会からの意見への対応状況）

行財政改革推進委員会意見 (経営健全性に係るもの)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
資金運用益の確保(H23)	○ 資金運用の基準を改正(H24)し、必要に応じて専門家から意見聴取するとともに平成30年度からは剰余金の短期定期預金を活用する等、安全かつ安定的な資金運用を実施している。	○ 安定した資金運用を行い、資金運用益を有効に活用している。

※○:対応済 △:対応中 ×:未対応

IV 改善に向けた今後の方針

1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針(団体記載)	団体の方針に対する意見等(県所管課記載)
<ul style="list-style-type: none"> ・本県の文化振興と交流の促進のためのH29～R3(H33)までの5年間のグランシップ第4期指定管理事業計画を策定しており、財団固有事業も含めて、着実に実施する。 ・特に、グランシップを拠点に県内各地で文化プログラムが積極的に取組まれるよう、グランシップ企画事業や県民の文化活動を支える取組みを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の向上と活力あふれる郷土づくりに寄与するために県が主体となって設立した団体で、設立以来、一貫して本県の文化振興の中核組織としての役割を担い、活動している。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、静岡県文化プログラムにおいても、県域プログラム及び地域密着プログラムへ関わっており、2020年以降もプログラムの内容を継続・発展させていくための施策推進の重要な担い手となっている。 ・平成30年度は課題であった剰余金を活用し、指定管理業務の企画事業とは別に、自主事業の文化プログラム事業を4事業実施するなど、文化プログラム推進の一翼を担っている。今後も県と連携し、文化振興事業に努めていただきたい。

2 今年度の改善の取組

団体の取組(団体記載)	団体の取組に対する意見等(県所管課記載)
<ul style="list-style-type: none"> ・「上質で多彩をより身近に」「県民との繋がりと広域的な協働・交流」「安全・安心・快適な施設運営と経営の安定化」「働きやすい職場づくり」、を開館20周年を迎えた運営上の基本方針として財団を運営し、グランシップを拠点に様々な事業に取り組む。 ・特に、グランシップ企画事業については、事業の目的を「音楽文化等の普及・振興」「伝統芸能の継承」「文芸・美術等の振興」「子ども・子育て世代への支援」の4本を柱とし、戦略的に事業を展開する。 ・新たな「子どもが文化と出会う機会創出事業」では、県内プロオーケストラと協働で音楽プログラムやコンサートを実施する事業に取り組む。 ・県立美術館やSPACを縦系に、県内の大学、高校等の学校や市町の公立文化施設、文化芸術団体、報道関係、企業等を横系に、連携の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財団が展開するグランシップ企画事業や地域の文化活動の支援事業など、各種の文化振興事業は全て本県の文化振興施策である。 ・グランシップ企画事業については、年間を通して上質で多彩な企画事業を実施している。また、企画事業展開に戦略目標を取り入れ、より充実した企画を提供できるように工夫している。 ・「子どもが文化と出会う機会創出事業」については新規事業であるため、調整事項も多くなるが、県と協力して事業に取り組んでいただきたい。

V 組織体制及び県の関与

1 役職員数及び県支出額等

(単位:人、千円)

区分	H28	H29	H30	R1	備考(増減理由等)
常勤役員数	1	1	1	1	
うち県派遣	0	0	0	0	
うち県OB	1	1	1	1	
常勤職員数	34	33	34	33	30年度退職者
うち県派遣	4	4	4	4	
うち県OB	1	1	1	1	
県支出額	902,200	888,700	884,700	962,600	
補助金					
委託金	902,200	888,700	884,700	962,600	指定管理料898,500+委託64,100
その他					
県からの借入金	0	0	0	0	
県が債務保証等を付した債務残高	0	0	0	0	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額(当該年度は予算額)、借入金・債務残高は期末残高

2 点検評価(団体記載)

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	指定管理料の積算基礎となる職員数を基本として、育休代替は労働者派遣で対応し、計画的な定員管理を行っている。なお、役員に関しては理事定数を見直し、29年6月から評議員9人、理事11人、監事2人とした。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	○	常勤役員は公募により選考しており、県OBに限定していない。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	○	平成25年度には県職員2人を削減し、財団職員へ置き換えするなど、派遣職員は必要最小限にとどめている。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

3 点検評価(県所管課記載)

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	○	県の文化振興施策を推進するためには、県と文化財団との連携が必要不可欠であり、県と文化財団との施策推進における一体性や情報の共有化のためには、県職員の派遣は必要であり、派遣職員は文化財団において十分な役割を果たしている。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	文化財団に対する県からの支出金は、グランシップの指定管理料や県内の子どもたちが文化に触れる機会を創出するための委託費であり、本県の文化と交流の拠点施設であるグランシップの運営管理や文化振興に必要な支出である。

※ 評価欄 … ○:基準を満たしている △:基準を満たしていないが合理的理由がある ×:基準を満たしていない

VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	○	○	指定管理事業について、県による外部評価委員の事業評価を受けた。 実施時期：H30年12月 委員：5名 公表の手法：県HP	<ul style="list-style-type: none"> 総合評価は、5点満点中、評価点「4.0 よく実施した」と判断された。 全体的には成果をあげている。 データの収集・分析・効果的な活用に力を入れていくべき。 専門的な人材の育成につとめてもらいたい。
利用者アンケート	○	○	グランシップ貸館利用者に施設の使いやすさ、スタッフの対応等について、また企画事業の来場者に満足度、内容等について、アンケートを実施した。 実施時期：H30年4～H31年3月 対象者89,429人 回答者数19,460人 公表の手法：グランシップHP（30年度事業報告書を公表しており、その中に記載）	<ul style="list-style-type: none"> 初めての文楽だが楽しかった。 素晴らしい演奏を聴くことができ、とても嬉しかったです。 男性スタッフが「雨の中ありがとうございます。」と言ってくれました。とても良い対応だと思います。 会場がきちんと整備されており毎回気持ちよく使用している。備品に関しても、動作が間違いなく使用できストレスがない。
利用者等意見交換会	○	—	グランシップ貸館利用団体等による利用者会議を開催し、要望、意見等を聴取した。 実施時期：H31年2月 参加者：7団体 結果非公開理由：参加者から意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	<ul style="list-style-type: none"> 会議室・練習室の予約を半年前ではなく1年前から可能にしてほしい。 練習室3,4にも鏡がほしい。 使用承認書、請求書の送付を電子データも選べるようにしてほしい。 ケータリングサービスの試食を兼ねた懇談の場を設けたところ、利用者同士での交流・意見交換が生まれ大変有意義な場であった。
その他（モニター制度）	○	—	公募モニターによる企画事業の鑑賞後のモニター会議を年4回開催し、要望、意見等を聴取した。 実施時期：H30年5月・9月・12月及びH31年3月、モニター8名 結果非公開理由：モニターから意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	<ul style="list-style-type: none"> 静岡で超一流の演奏をという企画はよい。来場していた学生にとって良い刺激となったと思う。 三人の人形遣いが人形に命を吹き込み、生きているように動かす姿に感動した。 文楽を身近に感じることができ楽しかった。 スタッフの明るい挨拶が印象的。親切に対応してくれた。
その他（利用者の声）	○	—	館内に設置した用紙及びWEBページによる県民、利用者の要望、意見等を聴取した。 実施時期：H30年4～31年3月 意見数：14件 結果非公開理由：利用者から意見内容を公表する旨の同意を得ていないため。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的にとってもきれいで利用者として嬉しい。 友の会WEBチケット購入時に受取方法を郵送にすると郵送料が必要なことがわかりにくかった。

○：実施している／公表している —：実施していない／公表していない

2 事業やサービスの見直し例

<ul style="list-style-type: none"> WEB予約の際、同時に備品の申込みWEB上でできるようにした。 企画事業のチケット購入について、スマートフォンでの対応を可能にした。 友の会WEBチケット購入画面の受取方法で郵送選択時に郵送料が必要なことがわかりやすいよう記載を変更した。
